

令和 8 年度  
公営企業会計 予算(案)について

恵庭市水道部経営管理課



# 令和8年度 恵庭市水道事業会計 予算(案)の概要 (ダイジェスト版)

※端数処理により合計や差額等が合わない場合がある。

## 予算規模等

- 予算規模(税込支出総額)**は、**23.7億円(前年度比△0.3億円)**となった。建設改良費は減少したものの、総係費や減価償却費の増加などもあり、**直近(10年間)では最大規模であった令和7年度に次ぐ予算規模を見込んだ。**
- 純損益は、0.65億円の黒字(純利益)が見込まれ、10期連続の黒字予算**を編成することができたが費用の増加により、黒字幅は減少傾向である。
- 期末の現金残高は、令和7年度決算見込みとほぼ横ばいである12.57億円を見込んだ。**  
※企業債借入額は、会計全体の現金収支のバランスを考慮し、設定している。

※消費税込み。ただし、カッコ()内は税抜き。

収益的収支	内容	R8予算	R7予算 に対する差額	経営戦略 に対する差額
収入	水道料金収入、受託事業収益、長期前受金戻入ほか	<b>17.23億円 (15.78億円)</b>	+0.08億円 (+0.07億円)	(+0.46億円)
	◀うち水道料金収入▶	◀ 15.38億円 ▶ ◀ (13.98億円) ▶	◀ +0.15億円 ▶ ◀ (+0.14億円) ▶	◀ (+0.28億円) ▶
支出	受水費、配水及び給水費、総係費、減価償却費ほか	<b>16.22億円 (15.14億円)</b>	+0.40億円 (+0.33億円)	(+0.11億円)
	◀うち減価償却費▶	◀ 4.51億円 ▶ ◀ (4.51億円) ▶	◀ +0.24億円 ▶ ◀ (+0.24億円) ▶	◀ +0.23億円 ▶ ◀ (+0.23億円) ▶
収支差	— ※差額のプラスは改善、マイナスは悪化を示す。	<b>1.02億円 (0.65億円)</b>	△0.32億円 (△0.26億円)	(+0.34億円)

資本的収支	内容	R8予算	R7予算 に対する差額	経営戦略 に対する差額
収入	企業債借入ほか	<b>2.25億円</b>	△0.70億円	+0.83億円
支出	水道施設整備費、メーター設置費、企業債償還金ほか	<b>7.46億円</b>	△0.66億円	+0.86億円
	◀うち建設改良費▶	◀6.37億円▶	◀△0.48億円▶	◀+0.83億円▶
収支差	— ※差額のプラスは改善、マイナスは悪化を示す。	<b>△5.21億円</b>	△0.05億円	△0.03億円

※資本的収支不足額は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金で補填。

キャッシュフロー	R6決算	R7決算見込	R8予算
資金期末残高 (年度末現金残高)	<b>11.38億円</b> (未収金 1.30億円) (未払金等 1.06億円)	<b>12.51億円</b> (未収金 1.19億円) (未払金等 1.10億円)	<b>12.57億円</b> (未収金 1.31億円) (未払金等 1.24億円)
		+1.13億円	+0.06億円

## 主な施策 概要

※事業費(工事請負費or委託料)のみ計上

○水道管路の耐震化・老朽化対策や河川改修に伴う管路整備を継続するとともに、河川横断部やJR横断部の改善に係る管路整備や新市街地開発等を見据えた経営戦略改定などに取り組みます。

### 配水管整備(耐震化・老朽化対策) 継続 306百万円

耐震性に乏しい塩ビ管の布設替による耐震化工事  
(北島、林田、柏木町、有明町、下島松)  
道路改良工事等に合わせた老朽管の布設替工事 (大町、中島町)

### ルルマップ川改修関連事業 継続 35百万円

橋梁添架(南18ルルマップ川仮橋) (財源 道費10/10道河川負担)  
(道の河川工事の進捗に合わせてR7予算に引き続き再計)

### 経営戦略改定(1/2年目) 臨時 9百万円

新市街地開発を見込んだ財政計画の改定  
(総事業費 18百万円)

### 配水池整備(老朽化対策) 継続 12百万円

躯体調査(牧場配水池で予定していた内面塗装の工事費高騰を踏まえ、今後の対策方針を検討するための調査)  
屋根塗装(牧場配水池流出バルブ室・送水ポンプ室)

### 河川横断の改善 新規 41百万円

橋梁添架化 設計・工事(道道漁川橋) (財源 国費1/3(上下一体耐震化))  
※現在の河川伏越し管上の河床洗掘対策として橋梁添架化を図るもの

### JR横断の改善 新規 13百万円

南18号JR横断部：旧管閉塞及び管路新設工事の設計

※R4に線路脇で漏水が発生したため、JR横断部を断水し、片送りによる応急の運用をしているが、バックアップ機能が脆弱な状況であり、事故や災害時に断水区域が広域になる恐れがある。そのため、管路を新設し、ループ化に戻すことでバックアップ機能の回復を図るもの。

## 主な経営指標

- 流動比率は、目標とする200%を上回り、資金繰りに係る安全性が高い状況である。**  
水道料金収入の増加及び減価償却費の計上などにより流動資産(主に現金預金)が増加している。一方で元金償還金の減少などにより流動負債が減少している。このため、流動比率が上昇している。
- 企業債現在高は、増加傾向であり、将来負担の増加に留意が必要である。**  
近年、水道事業会計全体の現金収支バランスを意識した借入としており、建設改良費の増加に応じて借入額が増加傾向である。  
元金償還金のピークは令和3年度であり、当面減少傾向が続いているが令和12年度に増加に転じる見込み。

	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算見込	R8予算
<b>流動比率</b>	<b>259.59%</b>	<b>325.73%</b>	<b>374.23%</b>	<b>421.19%</b>	<b>431.87%</b>
流動資産	1,050百万円	1,158百万円	1,277百万円	1,379百万円	1,396百万円
流動負債	405百万円	355百万円	341百万円	327百万円	323百万円

	R4決算	R5決算	R6決算	R7決見見込	R8予算
元金償還額	173百万円	160百万円	131百万円	125百万円	107百万円
借入額	290百万円	192百万円	196百万円	244百万円	180百万円
<b>企業債現在高</b>	<b>1,815百万円</b>	<b>1,848百万円</b>	<b>1,913百万円</b>	<b>2,032百万円</b>	<b>2,105百万円</b>

## 前年度予算との比較 (主なもの)

※消費税込み。

大項目	項目	R8予算	R7予算	R7予算 に対する差額	主な要因等
収益的収入	<b>給水収益(水道料金)</b>	<b>1,538百万円</b>	1,523百万円	<b>+15百万円</b>	<b>家事用及び家事用外の水道料金の微増(R7決算見込同額)</b>
〃	受託事業収益	57百万円	51百万円	+6百万円	料金徴収業務等下水道事務受託収益の増
〃	他会計負担金	2百万円	20百万円	△18百万円	新市街地開発に係る計画策定に対する負担金の皆減
収益的支出	受水費	751百万円	749百万円	+2百万円	R7の水量実績や有収率を踏まえ微増
〃	配水及び給水費	117百万円	141百万円	△25百万円	特別修繕引当金の減(配水池における老朽化対策手法等を見直すため)
〃	<b>総係費</b>	<b>226百万円</b>	193百万円	<b>+34百万円</b>	<b>委託料(経営戦略改定委託(皆増)、料金徴収委託費)の増</b>
〃	<b>減価償却費</b>	<b>451百万円</b>	428百万円	<b>+24百万円</b>	<b>近年の建設改良費の増加傾向が反映された</b>
〃	資産減耗費	17百万円	30百万円	△12百万円	メーター更新規模の減
〃	<b>支払利息及び企業債取扱諸費(利子償還)</b>	<b>25百万円</b>	<b>18百万円</b>	<b>+7百万円</b>	<b>借入利率の上昇(平均利率0.91%→1.21%)</b>
資本的収入	企業債	180百万円	244百万円	△64百万円	建設改良費の減(現金収支バランスを考慮した借入)
資本的支出	水道施設整備費	442百万円	457百万円	△15百万円	ルルマップ川改修関連事業費の減(継続事業費の精査)
〃	<b>メーター設置費</b>	<b>194百万円</b>	227百万円	△32百万円	<b>メーター更新規模の減</b>
〃	企業債償還金(元金償還)	107百万円	125百万円	△18百万円	過去の借入状況による変動



# 公営企業会計予算(案)の概要

## 【令和8年度予算案策定にあたり】

令和8年度公営企業会計予算は、将来にわたり健全で安定した経営を持続するための中長期的な経営方針となる「水道及び下水道の各ビジョン・経営戦略」を基本とし、計画的な事業の推進や現金残高と企業債残高のバランス、施設整備における重要度、優先度を考慮した予算を編成いたしました。

### 1. 水道事業会計の概要

収益的収入は、料金収入を前年度比1,486万円増の15億3,775万円(前年度決算見込み同額)とし、合計17億2,326万円(前年度比839万円増)を見込みました。

収益的支出では、総係費の委託料(経営戦略改定)等の増や企業債償還に係る支払利息の増等により、前年度比4,044万円増の16億2,172万円と見込み、純利益については前年度比2,599万円減となる6,471万円を見込みました。

資本的収入では、事業規模に応じ、企業債の借入額を前年度比6,400万円減の1億8,000万円とし、合計2億2,508万円(前年度比7,040万円減)を見込みました。

資本的支出では、建設改良費等の減少(主にメーター設置費)により、全体事業費を前年度比6,554万円減の7億4,559万円と見込みました。

#### 〔主な水道事業〕

事業費計 414,637千円(前年度比▲21,031千円)

#### 配水池整備

事業費 10,927千円(前年度比+2,633千円)

##### ●維持管理・調査

□配水池内面塗装について、今後の方針検討のための調査を実施します。

《3条予算》 10,927千円(前年度比+2,633千円)

#### 管路整備

事業費 394,512千円(前年度比▲32,862千円)

##### ●老朽化・耐震化

□地震に弱いとされる塩化ビニル管(TS継手)について耐震性を有する管への更新を優先的に行います。

布設替工事:老朽管耐震化工事、道路改良・下水道整備、開発行為に伴う工事など

《4条予算》 L=4,220m、234,166千円(前年度比▲157,618千円)

(耐震化工事分 216,442千円、道路改良等 17,724千円)

うちTS管:4,129m(R8末残延長 10,164m)

実施設計:耐震化設計、道路改良・下水道整備、開発行為に伴う更新設計など

《4条予算》 13,178千円(前年度比+5,181千円)

(耐震化工事分 8,000千円、道路改良等 5,178千円)

##### ●河川・JR横断部の改善・河川改修関連

□河川洗堀により埋設伏越管が露出・破損する恐れがあるため、橋梁添架管への転換および既設管の撤去を行います。

《4条予算》 L=62m、41,357千円(前年度比 皆増)

□河川拡幅や橋梁架替に伴い、既存添架管の撤去や新橋梁への添架を行います。

《4条予算》 L=206m、35,000千円(前年度比 皆増)

□JR横断部における片送り区間の解消(ループ化)による水質改善を行います。

《4条予算》 13,101千円(前年度比 皆増)

##### ●未普及改善

配水管整備により地域住民の公衆衛生の向上と生活環境の改善を図ります。

□布設工事

《4条予算》 L=940m、57,710千円(前年度比+48,410千円)

#### 経営戦略

事業費 9,198千円(前年度比 皆増)

##### ●水道事業ビジョン・経営戦略の改定(1年目)

□新市街地開発に関連した施設整備等の新たな事業を盛り込み、中長期的な視点から経営の持続化を見通します。

《3条予算》 9,198千円(前年度比 皆増)

□水道事業会計の概要

\*経費区分欄の(歳入)(歳出)には主な経費のみ記載

(単位:千円)

経費区分	予算額		増減額	備考
	令和8年度	令和7年度		
予算規模	2,367,314	2,392,410	▲ 25,096	
○収益的収支				
(歳入)	1,723,264	1,714,876	8,388	
水道料金	1,537,746	1,522,890	14,856	○水道料金(家事用外)の増:前年比+7,875千円 ○水道料金(家事用)の増:前年比+6,981千円
その他	185,518	191,986	▲ 6,468	○新市街地拡大に伴う整備計画策定に係る負担金の皆減:前年比▲17,864千円
(歳出)	1,621,720	1,581,278	40,442	
受水費	750,716	749,448	1,268	○R7実績を踏まえた給水量による算定(微増)
配水及び給水費	116,533	141,306	▲ 24,773	○特別修繕引当金の皆減(配水池の老朽化対策手法等を見直すため):前年比▲20,000千円 ○委託料(新市街地整備計画等)の減:前年比▲10,720千円
総係費	226,303	192,561	33,742	○委託料(ビジョン・経営戦略改定(皆増)、物価や労務単価の上昇に伴う委託料の全体的な増加)の増:前年比+18,841千円 ○人件費の増:前年比+15,840千円
企業債償還利息	24,230	17,525	6,705	○利子償還の増
その他	503,938	480,438	23,500	○減価償却費の増
○資本的収支				
(歳入)	225,083	295,479	▲ 70,396	
企業債	180,000	244,000	▲ 64,000	○水道事業債(建設改良費)借入額の減
出資金・補助金	8,333	0	8,333	○漁川橋橋梁添架事業に伴う社会資本整備総合交付金の増
その他	36,750	51,479	▲ 14,729	○ルルマップ川河川改修関連事業費精査に係る工事負担金の減
(歳出)	745,594	811,132	▲ 65,538	
水道施設整備費	442,402	457,075	▲ 14,673	○工事請負費の減:前年比▲57,502千円 ○委託料(漁川橋伏越管撤去実施設計,南18号JR横断管更新設計)の皆増:前年比+34,639千円 ○人件費の増:前年比+7,906千円
固定資産購入費	0	450	▲ 450	○無形固定資産購入の皆減
企業債償還金	106,913	124,920	▲ 18,007	○元金償還金の減
メーター設置費	194,279	226,687	▲ 32,408	○メーター設置数の減
その他	2,000	2,000	0	

※消費税込

(単位:千円)

	令和8年度	令和7年度	増減額	
当年度純利益(税抜)	64,714	90,703	▲ 25,989	

# 令和8年度 恵庭市下水道事業会計 予算(案)の概要 (ダイジェスト版)

※端数処理により合計や差額等が合わない場合がある。

## 予算規模等

- 予算規模(税込支出総額)**は、**50.4億円(前年度比△2.2億円)**となった。建設改良費(主に公共下水道整備事業費)は減少したものの、収益的支出は概ね横ばいであり、直近(6年間)では、過去最大規模であった令和7年度に次ぐ**予算規模を見込んだ**。
- 純損益は、0.96億円の黒字(純利益)**が見込まれ、法適用(平成25年度)以降、14期連続の黒字予算を編成することができた。なお、純利益は直近6年間の変動幅(0.42~1.45億円)の範囲内で推移している状況。
- 一般会計繰入金金の総額は、費用の増加により、前年度比+0.4億円の9.5億円を見込んだ。
- 期末の**現金残高は令和7年度決算見込みから0.46億円増加し、22.45億円を見込んだ**。

※消費税込み。ただし、カッコ()内は税抜き。

収益的 収支	内容	R8予算	R7予算 に対する差額	経営戦略 に対する差額
収入	下水道使用料収入、一般会計繰入金、国庫補助金、受託事業収益、長期前受金戻入、バイオガス売却収益ほか	<b>29.66億円 (28.51億円)</b>	+0.14億円 (△0.24億円)	(+2.81億円)
	◀うち下水道使用料▶	◀ 11.24億円 ▶ ◀ (10.21億円) ▶	◀ △0.02億円 ▶ ◀ (△0.02億円) ▶	◀ (+0.54億円) ▶
	◀うち一般会計繰入金▶	◀ 8.41億円 ▶ ◀ (8.41億円) ▶	◀ +0.42億円 ▶ ◀ (+0.42億円) ▶	◀ (+2.11億円) ▶
支出	管渠費、処理場費、個別排水処理費、生ごみ・し尿処理場費(受託事業費)、業務費、総係費、減価償却費ほか	<b>28.60億円 (27.55億円)</b>	+0.23億円 (△0.33億円)	(+3.12億円)
	◀うち減価償却費▶	◀ 15.17億円 ▶ ◀ (15.17億円) ▶	◀ 0.00億円 ▶ ◀ (0.00億円) ▶	◀ (△0.12億円) ▶
収支差	— ※差額のプラスは改善、マイナスは悪化を示す。	<b>1.06億円 (0.96億円)</b>	△0.09億円 (+0.08億円)	(△0.31億円)

資本的 収支	内容	R8予算	R7予算 に対する差額	経営戦略 に対する差額
収入	企業債借入、国庫補助金、一般会計繰入金ほか	<b>12.73億円</b>	△3.08億円	+5.41億円
	◀うち一般会計繰入金▶	◀1.05億円▶	◀+0.03億円▶	◀+0.06億円▶
支出	公共下水道整備費、個別排水処理施設整備費、企業債償還金ほか	<b>21.84億円</b>	△2.38億円	+6.18億円
	◀うち建設改良費▶	◀11.60億円▶	◀△3.56億円▶	◀+5.07億円▶
収支差	— ※差額のプラスは改善、マイナスは悪化を示す。	<b>△9.11億円</b>	△0.69億円	△0.77億円

※資本的収支不足額は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金で補填。

キャッシュフロー	R6決算	R7決算見込	R8予算
資金期末残高 (年度末現金残高)	<b>22.41億円</b> (未収金 1.70億円) (未払金等 2.33億円)	<b>22.00億円</b> (未収金 1.67億円) (未払金等 1.38億円)	<b>22.45億円</b> (未収金 1.55億円) (未払金等 1.79億円)
		↑ <b>△0.41億円</b>	↑ <b>+0.46億円</b>

## 主要な施策 概要

- 管渠及び処理場の老朽化対策及び耐震化を継続して推進します。また、ウォーターPPP導入準備や新市街地開発等を見据えた公共下水道事業計画の変更や経営戦略の改定などに取り組みます。

<b>管路ストックマネジメント事業</b>	継続	<b>426百万円</b>	<b>管路整備事業等</b>	継続	<b>379百万円</b>
老朽化対策 点検・調査、設計・改築(柏陽地区ほか)			雨水整備(基本設計、工事(戸磯,中島,大町ほか))	継続	209百万円
<b>管路耐震化事業</b>	継続	<b>9百万円</b>	柏陽地区複合施設関連雨水整備工事	継続	100百万円
耐震化 設計			汚水整備工事(大町ほか)	継続	18百万円
<b>処理場整備事業</b>	継続	<b>422百万円</b>	ウォーターPPP公募資料等作成支援	継続	20百万円
老朽化対策(更新工事:分配槽可動堰1/2年目ほか) (設計:監視制御装置ほか)			公共下水道事業計画策定(変更)	臨時	25百万円
耐震化(工事:放流P棟、設計:流入渠・放流渠、診断)			経営戦略改定(1/2年目)(総事業費 14百万円)	臨時	7百万円
			<b>個別排水処理施設整備事業</b>	継続	<b>21百万円</b>
			合併処理浄化槽の整備工事 7基		

## 主な経営指標

- 流動比率は、目標とする150%を上回り、資金繰りに係る安全性が高い状況である。**  
一般会計繰入金金の増などにより流動資産が増加し、流動比率も増加傾向である。
- 企業債現在高は、分流化事業の完了や処理場主要設備(脱水機)の更新完了により、建設改良費が減り、元金償還額以内での借入が可能であるため、企業債現在高が減少する見込みである。**  
元金償還金は令和6年度に増加に転じており、令和8年度(923百万円)をピークに減少に転じる見込み。

	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算見込	R8予算
<b>流動比率</b>	<b>195.1%</b>	<b>195.9%</b>	<b>201.0%</b>	<b>221.5%</b>	<b>222.7%</b>
流動資産	2,113百万円	2,295百万円	2,411百万円	2,366百万円	2,400百万円
流動負債	1,083百万円	1,172百万円	1,199百万円	1,068百万円	1,078百万円

	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算見込	R8予算
元金償還額	932百万円	887百万円	891百万円	904百万円	922百万円
借入額	662百万円	537百万円	597百万円	929百万円	745百万円
<b>企業債現在高</b>	<b>12,925百万円</b>	<b>12,575百万円</b>	<b>12,281百万円</b>	<b>12,305百万円</b>	<b>12,128百万円</b>

## 前年度予算との比較 (主なもの)

※消費税込み。

大項目	項目	R8予算	R7予算	R7予算 に対する差額	主な要因等
収益的 収入	下水道使用料(個排含む)	1,124百万円	1,126百万円	△2百万円	家事用が微増の一方、家事用外が微減(R7決算見込同額)
〃	雨水処理負担金(一般会計繰入金)	402百万円	557百万円	△155百万円	分流化完了に伴う資産整理による減
〃	受託事業収益(生ごみ・し尿処理場維持管理受託収益)	74百万円	88百万円	△14百万円	修繕規模の減
〃	他会計負担金(一般会計繰入金)	414百万円	182百万円	+233百万円	分流化完了に伴う資産整理による増及び物価等上昇による増
〃	長期前受金戻入	795百万円	803百万円	△8百万円	償却終了資産の増加による微減
〃	雑収益(バイオガス売却益等)	72百万円	75百万円	△4百万円	バイオガス売却益の微減
収益的 支出	管渠費	145百万円	211百万円	△66百万円	委託料(管渠点検調査規模)の減
〃	処理場費	640百万円	591百万円	+49百万円	委託料(耐震診断)の増
〃	総係費	123百万円	109百万円	+14百万円	委託料(経営戦略改定など)及び職員人件費の増
〃	減価償却費	1,517百万円	1,517百万円	0百万円	横ばい
〃	支払利子および企業債取扱諸費(利子償還)	163百万円	134百万円	+29百万円	借入利率の上昇(平均利率 1.09%→1.33%)
資本的 収入	企業債	745百万円	1,033百万円	△288百万円	建設改良費の減
〃	補助金(国庫補助)	408百万円	443百万円	△34百万円	補助対象事業の減
資本的 支出	公共下水道整備費	1,137百万円	1,491百万円	△354百万円	分流化事業の皆減及び処理場主要設備更新の減
〃	個別排水処理施設整備費	21百万円	22百万円	△1百万円	合併処理浄化槽7基
〃	企業債償還金(元金償還)	922百万円	904百万円	+18百万円	過去の借入状況による変動



## 2. 下水道事業会計の概要

収益的収入は、使用料収入を前年度比222万円減の11億2,358万円(前年度決算見込み同額)、一般会計繰入金を前年度比4,154万円増の8億4,088万円とし、合計29億6,630万円(前年度比1,378万円増)を見込みました。

収益的支出では、終末処理場及び総係費の委託料等の増額により、前年度比2,312万円増の28億6,013万円と見込み、純利益については前年度比861万円増となる9,594万円を見込みました。

資本的収入では、事業規模に応じ、企業債の借入額を前年度比2億8,760万円減の7億4,500万円とし、合計12億7,298万円(前年度比3億766万円減)を見込みました。

資本的支出では、建設改良費の減により、前年度比2億3,820万円減の21億8,360万円と見込みました。なお、支出総額である予算規模は、前年度比2億1,508万円減の50億4,373万円となりました。

### [主な下水道事業]

事業費計 1,280,391千円(前年度比▲371,757千円)  
※(3条予算+4条予算)事務費含む

管路ストックマネジメント事業 事業費 442,835千円(前年度比+233,095千円)

#### ● 老朽化対策

- スtockマネジメント計画に基づき、布設替えや更生による管路の老朽化対策を図ります。  
《4条予算》 377,000千円(前年度比+306,450千円)
- 自走式テレビカメラ調査や管口カメラ調査により、管路施設の健全度を把握します。  
《3条予算》 31,000千円(前年度比▲67,800千円)
- 老朽化した公共柵やマンホール蓋の交換を行います。  
《4条予算》 18,450千円(前年度比 増減なし)
- ★ 《4条事務費》 16,385千円

管路耐震化事業 事業費 9,342千円(前年度比▲80,219千円)

- 耐震診断結果に基づき、管路施設の耐震化を図ります。  
《4条予算》 9,000千円(前年度比▲78,000千円)
- ★ 《4条事務費》 342千円

管路整備事業 事業費 391,393千円(前年度比+197,376千円)

#### ● 雨水・污水整備

- 雨水管整備による浸水対策や污水管整備による生活排水処理の普及を図り、快適で持続可能な生活環境を創出します。  
(主な事業: 柏陽地区管渠布設工事(複合施設関連)(雨水)、中島地区管渠布設工事(雨水)、大町地区管渠布設工事(雨・污水)等)  
《4条予算》 306,800千円(前年度比+177,100千円)
- 民間活力の積極利用  
包括民間委託(ウォーターPPP)の導入準備を行います。  
《3条予算》 20,000千円(前年度比+200千円)
- 下水道ビジョン・経営戦略の改定(1年目)、公共下水道事業計画策定
- 新市街地開発に関連した施設整備等の新たな事業を盛り込み、中長期的な視点から経営の持続化を見通します。  
《3条予算》 32,208千円(前年度比+8,008千円)
- ★ 《4条事務費》 12,385千円

処理場整備 事業費 436,821千円(前年度比▲96,421千円)

#### ● 老朽化対策

- スtockマネジメント計画等に基づく分配槽可動堰外更新(1/2年目)等により老朽化対策を図ります。  
《4条予算》 292,000千円(前年度対比▲173,000千円)
- 耐震化
- 放流ポンプ棟の耐震化を図ります。加えて、終末処理場内の各施設に応じた重要度を踏まえ、耐震診断や耐震化設計を進めます。  
《3条予算》 43,000千円(前年度比 皆増)  
《4条予算》 87,400千円(前年度比+34,000千円)
- ★ 《4条事務費》 14,421千円

□下水道事業会計の概要

\*経費区分欄の(歳入)(歳出)には主な経費のみ記載

(単位:千円)

経費区分	予算額		増減額	備考
	令和8年度	令和7年度		
予算規模	5,043,734	5,258,815	▲ 215,081	
○収益的収支				
(歳入)	2,966,298	2,952,521	13,777	
下水道使用料 (個別排水処理使用料含む)	1,123,577	1,125,800	▲ 2,223	○下水道使用料(家事用外)の減:前年比▲8,208千円 ○下水道使用料(家事用)の増:前年比+6,026千円 ○個別排水処理使用料(家事用)の減:前年比▲41千円
一般会計繰入金	840,884	799,341	41,543	○他会計負担金の増:前年比+232,629千円 ○雨水処理負担金の減:前年比▲155,413千円 ○一般会計補助金の減:前年比▲35,673千円
バイオガス発電事業収益	71,000	74,000	▲ 3,000	○ガス売却収益の減
その他	930,837	953,380	▲ 22,543	○生ごみ・し尿受託収益の減:前年比▲13,574千円
(歳出)	2,860,132	2,837,009	23,123	
管渠費	145,247	211,286	▲ 66,039	○委託料(ストマネ調査等)の減:前年比▲65,083千円
処理場費	640,085	590,697	49,388	○委託料(耐震診断等)の増:前年比+43,027千円 ○修繕費(定期・臨時)の増:前年比+7,870千円
総係費	122,969	109,082	13,887	○委託料(ビジョン・経営戦略改定等)の増: :前年比+8,285千円 ○人件費の増:前年比+2,846千円
企業債償還利息	163,077	133,655	29,422	○利子償還の増
その他	1,788,754	1,792,289	▲ 3,535	
○資本的収支				
(歳入)	1,272,983	1,580,643	▲ 307,660	
企業債	745,000	1,032,600	▲ 287,600	○下水道事業債(公共下水道 建設改良費)借入額の減
国庫補助金	408,195	442,500	▲ 34,305	○社会資本整備総合交付金(公共下水道)の減
その他	119,788	105,543	14,245	○公共受益者負担金の増:前年比+11,695千円
(歳出)	2,183,602	2,421,806	▲ 238,204	
公共下水道整備費	1,136,784	1,491,187	▲ 354,403	○委託料(管渠・処理場ストマネ等)の減: :前年比▲234,500千円 ○工事請負費の減:前年比▲123,000千円 ○人件費の増:前年比+2,756千円
固定資産購入費	1,600	2,304	▲ 704	○固定資産購入の減
投資その他の資産	100,000	0	100,000	○投資有価証券購入の増
企業債償還金	921,750	903,725	18,025	○企業債償還金の増
その他	23,468	24,590	▲ 1,122	

※消費税込

(単位:千円)

	令和8年度	令和7年度	増減額	
当年度純利益(税抜)	95,939	87,329	8,610	